

補足資料

試験問題評価委員会外部評価分科会の外部評価

大学入試センター試験は、「大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とした」試験として実施されている。このことに照らし、試験問題評価委員会は、本試験の試験問題について、以下の項目別（7項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

1 項目別評価

- (1) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている（出題範囲）
- (2) 単に知識だけではなく、思考力や応用力等を問う問題も含まれている（思考力）
- (3) 出題内容は、特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない（出題内容）
- (4) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (5) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (6) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (7) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切である

(評定値)

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、「国語総合」の教科書で扱われる程度の文章から出題されており、適切であった。
(2) 思考力	4	基礎・基本を重視しながらも、論理的思考力や判断力を問う設問が多く見られた。今後も同様の作問を期待する。
(3) 出題内容	4	授業において日々積み重ねてきた学習の成果が現れるよう、多様な分野や領域から幅広く出題されていた
(4) 問題構成	4	各設問の視点が多様であり、適切であった。正誤の微妙な差異の判別を求められる設問が減り、解答時間についての配慮が見られた。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は素材文、選択肢群ともに適切であった。
(6) 難易度	4	全体の平均点は121.55点と、昨年度よりも16.87点上昇した。難易度は適正である。センター試験最後となる次年度も同様な難易度を期待する。
(7) 得点のちらばり	4	受験者の学力をよく識別する設問も多く見られ、得点のちらばりは適正であったと思われる。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	1. の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

科目名	世界史A
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	やや細かな語句が見られるものの、全体として高等学校学習指導要領及び教科書の内容に準拠した適切な出題範囲であった。また、現代の世界に関する出題もあり、科目の目標を踏まえた出題であった。
(2) 思考力	3	昨年よりも、地図・グラフ・年表を使用した問題が増加した。一方で、文章選択の設問のうち5問は、「主語・述語のみ」・「目的語・述語のみ」の短文を選択させるものとなっており、実質的に語句選択と変わらない設問となっていた。歴史的思考力を問うためにも、選択肢の文章の工夫が望まれる。
(3) 出題内容	4	中世史の減少と近世史の増加が目立ったが、近・現代史中心の出題は変わらず科目の特性に沿った出題であった。また、文化史と複数分野混在の問題が減り、政治史からの出題が増加した。地域ではヨーロッパからの出題が多かったが、正解以外の選択肢にはその他の地域も多く、出題者の目配りが感じられた。
(4) 問題構成	4	昨年同様、大問4題、小問10題の構成を踏襲し、今年度も多様な観点から出題されていた。現在の問題構成が適切であると考えられる。単純な語句選択問題は1題のみで、リード文の空欄について絵画を参照して答えるようになっており、出題が工夫されていた。他より配点の高い設問は、資料をもとに考察させており、適切であった。
(5) 表現・用語	4	全体として受験者にとって、理解可能な表現・用語が使用されており適切であった。
(6) 難易度	4	科目の目標に沿いながら、多くの教科書に掲載されている内容を問う出題となっていた。教科書を用いた授業中心の学習で判断することが容易となるよう配慮されており、適切であった。
(7) 得点のちらばり	4	正解以外の選択肢に工夫がなされ、最近では最も高い平均点となった。度数分布では平均点よりも低い層にピークがみられるが、受験者層や難易度および得点上位層の数から、問題はないと考える。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	現代の世界にかかわる語句が多くとりあげられ、「世界史A」の特色がよく感じられる問題であった。出題の範囲や内容、構成はおおむね適切であり、難解な表現・用語もなかった。問い方も工夫されており、基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切な問題であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に沿い、教科書に表記されている内容から適切に出題されていた。
(2) 思考力	3	地図・グラフ・年表を使用し、思考力・判断力を問う良問がみられた。また、6択問題もあり設問も工夫されていた。リード文はどれも興味深いものだが、設問に十分に活用しているとは言い難い。今後は資料やリード文を設問に活かし、より思考力・判断力を問う問題を増やしてほしい。
(3) 出題内容	4	基本的事項を中心に出题されており、教科書の内容で十分に対応可能であった。 地域別では「中南米・オセアニア」からの出題数の減少、時代別では「中世史」の割合が高いことが気になるものの、全体としては複数混合問題の増加など、各分野のバランスに配慮した出題内容となっている。
(4) 問題構成	3	設問数、配点については適切であった。設問形式は、文章正誤問題が多いが、複数事項の選択や6択問題、地図・グラフ・年表を用いた問題など工夫されていた。
(5) 表現・用語	3	受験者に対して文章表現・用語はおおむね適切であり、十分理解できるものであったが、一部の出題では判断を迷わせる表現もあった。
(6) 難易度	4	大学入学者の選抜を行う試験問題として、難易度は適切であった。出題地域、分野などバランスからみても妥当といえる。
(7) 得点のちらばり	4	全受験者のうち8割から9割台の得点者数が最も多いが、基礎基本を丁寧に学習した成果が反映された結果であり、妥当といえる。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	高等学校学習指導要領に沿って出題されており、出題範囲のバランスや出題内容、難易度にも配慮がなされていた。今後は興味深いリード文を活用した設問や、今回出題されたような、地図やグラフなどの資料を通して思考力・判断力などを問う問題が増えることを期待したい。

科目名	日本史A
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	19世紀半ばから1990年代後半までの出題であり、扱われた内容も高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	「史料・グラフ・地図・図版等」からの出題は昨年度と同数であり、一つひとつがよく工夫されていた。また、複数の項目や分野にまたがる出題も多く、受験者の歴史的思考力や判断力を問う良問が多かった。
(3) 出題内容	4	項目別で見るとバランスよく出題されていた。分野別では政治・外交に関する出題が増加した。
(4) 問題構成	4	設問数、設問形式は適切である。配点では、今年度も4点問題が4題出されたが、難易度の低い問題にも4点が配点されるという配慮がなされた。
(5) 表現・用語	3	基礎的・基本的知識を問う設問でありながら、一問一答式の学習では判別することが難しい良問が多かった。リード文や史料を読み解けば分かるようにキーワードが適切に配置され、解答を通じて歴史的思考力や判断力を養えるようになっていた。
(6) 難易度	4	「日本史B」との共通問題はやや難化したが、全体的には易化した。「日本史A」が標準2単位であることを踏まえると、今後も、難易度にはご配慮いただきたい。
(7) 得点のちらばり	3	低得点者が多いものの、「日本史A」の受験者の実態を考えると、おおむね適正な分布であると考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	受験者の思考力・読解力・判断力を問う良問が多く、問題作成者の工夫がわかる力作であったと評価する。難易度を抑えながらも、設問を通じて、「史料・グラフ・地図・図版等」の解釈などを追体験させるような出題や、現代の諸課題に着目させるような出題には好感が持てる。受験者の空間的情報の認識を問うような出題を加えていただければ幸いである。来年度も、この姿勢で問題作成されることを期待する。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に準拠し、教科書の内容や授業実態に即した内容が問われていた。
(2) 思考力	4	史料を用いて歴史を考察させたり、抽象的な文を論理的に考えさせたりするなど、出題分野や形式を問わず、知識を活用して解答させる工夫がなされていた。今後も、多様な資史料を活用し、歴史的思考力を問う良問を適切に出題していただきたい。
(3) 出題内容	3	基本的な知識を問う標準的な内容がほとんどであった。しかし、政治史分野の問題が多く、文化史分野の問題が少なかった。今後は各分野をバランスよく取り扱うとともに、各分野を相互に関連付けて考察させ、幅広い理解力を問う作問をお願いしたい。
(4) 問題構成	4	設問数、配点ともに適切であった。今年度も第1問に時代を区切らないテーマ史の問題の配点が維持された。大きな時間軸の中で歴史事象の展開を判断させる出題者の意図は大いに評価できる。今後も継続していただきたい。
(5) 表現・用語	4	今年度も用語の表記について、特に難しい表現も見られず、また、語句の併記など多様な教科書で学ぶ受験者への配慮が見られた。史料についても脚注等を丁寧に読むことで判断できるよう配慮されていた。今後も継続していただきたい。
(6) 難易度	4	昨年度と比較して、平均点は1.35点上昇し、平均点は63.54点であった。やや難易度の高い問題もあったが、おおむね標準的な難易度であった。「基本的な事項・事柄」を問う出題が主体であり、基本的な知識・理解を重視するという姿勢は今年度も維持されている。
(7) 得点のちらばり	4	得点がほぼ正規分布を示していたことから、適正であったと考える。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	例年通り、高等学校学習指導要領の趣旨に基づいた出題であり、基礎・基本事項の定着度に加え、理解力や歴史的思考力を測る良問であり、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。次年度以降も基礎的な学力を判定する方針を継続していただきたい。

科目名	地理A
-----	-----

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	現行の高等学校学習指導要領の目標や内容に沿った範囲となっている。
(2) 思考力	4	地図や図表を総合的に考察させる問題や、教科書に掲載されていない図表であっても、学習内容から正答にいたることができる問題が見られる。
(3) 出題内容	3	おおむね、各分野・領域をカバーする問題となっている。いくつかの小問には、「地理A」の学習事項としてはやや細かすぎる内容が見られる。
(4) 問題構成	4	適切である。
(5) 表現・用語	3	おおむね適切である。しかし、文章があいまいなため、判断に迷う問題が見られる。
(6) 難易度	4	適正である。
(7) 得点のちらばり	4	適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「地理A」の範囲を踏まえ、バランスよく出題されている。複数の図表、写真等を活用し、丁寧に熟考されて作られている。単純に知識だけを問うのではなく、様々な切り口で思考を促し、判断させる問題も提示されており、高校の授業改善につながる内容となっている。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の目的や内容に沿った範囲となっている。系統地理・地誌・地図に関して幅広く出題されている。また、世界の地域についても若干の偏りはあるが、遺漏なく取り扱われている。
(2) 思考力	4	文章だけの問題が4問のみで、地図や図表を利用して解く問題が大半を占めており、思考力や応用力を問うことに大きく重点が置かれている。一つのテーマで展開する問題は、受験者にとって身近なものを取り扱われており、知識や理解をもとに思考を促し、さらに興味や関心を惹起するという点で良問である。
(3) 出題内容	3	出題分野には偏りはなく、防災や難民、気候変動など近年主要な課題となっている内容も取り扱われており、工夫された良問が多い。ただし受験者になじみのない国名や都市名、海峡名などがみられ、それらの出題の際はその量や難易度に配慮をいただきたい。
(4) 問題構成	4	問題数、配点、設問形式ともに例年と同様に適切であった。「地理的な見方や考え方」を地図や図表、画像などで多角的に思考・判断する問題が多くみられることは高く評価できる。文章正誤、選択、組合せ問題も無理なく適切に配置されていた。一つのテーマで大問を構成する際、そのテーマに拘るあまり、問題の柔軟性が失われてしまうこともあるため、配慮が必要である。
(5) 表現・用語	3	文章表現や用語はおおむね適切である。リード文や問題文がやや長い問題があり、一定の改善を求めたい。また用語や図表の注釈が原文のまま掲載されており、受験者に分かりやすい表現に変える必要があるのではないか。地形図と地勢図、画像などについては、教科書でもカラー版で学習しており、カラー化を望みたい。
(6) 難易度	3	高等学校の「地理B」の学習活動の範囲を超えた難解な問題が一部みられるが、難易度は適切である。地図や図表、統計資料を読み取り思考・判断する問題が多く、全体的に「地理的な見方や考え方」の定着を試される良問で構成されている。
(7) 得点のちらばり	4	得点分布はほぼ正規分布をしていることから、得点のちらばりはおおむね適正といえる。ただし他の地理歴史B科目と比較し、標準偏差が小さい傾向が今年も続いており、受験者の学習量が得点という結果に直結する作問をお願いしたい。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。単純に知識を問うだけでなく、様々な資料を読み取り、分析・考察して解答を導き出す能力をみる問題が多い。今後も、基礎的事項の知識・理解の定着度に加え、地理的な見方や考え方を測る方針を継続していただきたい。

科目名	現代社会
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	現行の高等学校学習指導要領の範囲から適正に出題されている。
(2) 思考力	3	昨年度に引き続き、思考・判断・応用の力を重視する傾向が見受けられた。今後も思考・判断・応用の力、加えて分析・活用の力を問う問題をさらに増やすことが望まれる。
(3) 出題内容	4	現行の高等学校学習指導要領に示された科目の特性を踏まえた出題内容であり、偏りなく出題された。
(4) 問題構成	4	大問数、小問数とも昨年度と同様であり、適切である。配点、設問形式も適切である。リード文をすべての大問に付し、「現代社会」という科目の性格を意識したうえで、メッセージ性の強い切り口を示した点は評価できる。
(5) 表現・用語	3	選択肢の並べ方についても、系統立てた並べ方や時代順に並べるなど、教育的配慮は施されていた。一部表現に曖昧さが見られたことは残念である。
(6) 難易度	4	全体としては基礎的・基本的な知識を問う内容が多く、授業で扱う内容と時事的事象も含めた知識・理解で十分得点でき、難易度は全体として適正である。
(7) 得点のちらばり	4	ほぼ正規分布であり、適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	現行の高等学校学習指導要領に準拠し、教科・科目の目標や指導上の留意点などを踏まえ、基礎的・基本的な知識から思考力・判断力を問う問題まで偏りなく出題され、大学入試センターの問題として適切である。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	おおむね高等学校学習指導要領の範囲内からの出題であるが、高等学校学習指導要領が求めるレベルよりも深く問う設問が一部見られた。
(2) 思考力	4	資料やグラフを読み取る問題など、単純に知識を問うだけでなく、思考力や判断力を問う設問が見られた。
(3) 出題内容	3	全体では、一部の教科書にのみ取り扱われているもの、また教科書脚注からの出題もみられた。[23]の日本の美意識を問う設問や[25]の内村鑑三についての細かい事項に踏み込んだ設問も見られた。
(4) 問題構成	4	設問数や配点においては適切であり、標準的難易度の設問が多く見られた。8択問題がなくなり、昨年同様に古語による出題もなく形式面でさらに改善が進んだ。しかし、全体として、他科目に比べ文章量が多いため、受験者の負担を軽くする工夫が求められる。
(5) 表現・用語	3	[6]、[18]など、日常用いて表現される言語と学問的用語を含んだ表現が混在しており、受験者が戸惑う設問も一部見られた。
(6) 難易度	4	教科書レベルからみても妥当な難易度だと評価できる。全体的にはバランスがとれた標準的な難易度であった。しかしながら、第3問は専門的に踏み込んだ出題もあり、受験者にとって難しかったのではないかと。
(7) 得点のちらばり	4	適正であった。受験者の学習成果が素直に得点に反映されていたものと思われる。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	高等学校学習指導要領・教科書の内容を基本的にふまえ、工夫された問題であった。また、問題の難易度や平均点は適正だったと評価できるため、昨年度および今年度に引き続き維持されたい。「倫理」受験者を今年以上に増やしていくためにも、基礎的・基本的な知識を手掛かりに思考・判断をすることで正解を導き出せる良問の作成を今後ともお願いしたい。あわせて、受験者の地道な努力が報われるような配慮をお願いしたい。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	全ての問題は、高等学校学習指導要領の範囲内から出題されていた。
(2) 思考力	4	基礎的な知識を基に思考力や応用力を問う問題や、資料やグラフ・図を用いて、読解力や分析力を問う問題が増えており、工夫が見られた。
(3) 出題内容	4	昨年度同様の大問4問であった。大問では、政治分野、経済分野の融合問題が3問、小問では政治分野、経済分野ともに17問ずつと、バランスよく出題されている。
(4) 問題構成	3	問題構成は適切である。昨年度同様の34問だった。リード文も充実しており、思考力や資料の読み取りを要する問題も多く出題されているため、解答時間に応じた問題数であると思われる。分野における内訳は、政治分野が17問50点、経済分野が17問50点となり、バランスよく構成されている。設問形式について、7択以上の設問が昨年度1問から7問に増加しており、やや知識重視の印象を与えた可能性がある。
(5) 表現・用語	3	リード文はメッセージ性のある内容だった。一部の設問にリード文のテーマと関連の薄い内容や細かな知識が求められる出題がなされており、今後の改善を求めたい。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正なものである。基礎レベルと応用レベルにおける問題配分及び配点については、基礎レベル27問79点、応用レベル7問21点で、大問ごとの配分も適切であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。政治分野と経済分野の配点や大問間における難易度についてバランスがとれている。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	設問は基礎的な知識を問うものを中心としながら、思考力や判断力を問う出題や読解力や知識を活用した問題など多様な出題形式となっており工夫が見られる。引き続き出題の充実を期待する。一方で、選択肢の設定には正答とそれ以外の選択肢に関連を持たせる等今後の改善を期待したい。以上の観点を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であったと言える。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	「倫理」分野については、おおむね高等学校学習指導要領の範囲内からの出題であるが、高等学校学習指導要領が求めるレベルよりも深く問う設問が一部見られた。「政治・経済」分野については、全ての問題は、高等学校学習指導要領の範囲内から出題されていた。
(2) 思考力	4	「倫理」分野については、資料を読み取る問題など、単純に知識を問うだけでなく、思考力や判断力を問う設問が見られた。「政治・経済」分野については、基礎的な知識をもとに思考力や応用力を問う問題や、資料やグラフ・図を用いて、読解力や分析力を問う問題が散見され工夫が見られた。
(3) 出題内容	4	昨年度同様、大問6問のうち、「倫理」分野と「政治・経済」分野が3問ずつ出題された。両分野とも全体からバランスよく出題されていた。
(4) 問題構成	4	設問数は昨年度同様36問であった。設問内容は「倫理」分野、「政治・経済」分野ともに18問ずつ、配点は50点ずつであった。「倫理」分野については、昨年同様に古語による出題はなく標準的難易度の設問が多く見られた。しかし、全体として、「政治・経済」分野に比べ文章量が多いため、受験者の負担を軽くする工夫が求められる。「政治・経済」分野については、「政治・経済」の融合を意識した大問構成でおおむね評価できる。
(5) 表現・用語	3	「倫理」分野については、6などは選択肢の正誤判断をする際に、表現が紛らわしい設問も一部みられた。「政治・経済」分野については、リード文はメッセージ性のある内容だった。ただし一部の設問にリード文と関連のテーマと関連の薄い内容ややや細かな知識への出題がなされており、改善を期待したい。
(6) 難易度	4	「倫理」分野については、教科書レベルからみても妥当な難易度だと評価できる。しかしながら、第2問は専門的に踏み込んだ内容であり、設問数も多く、受験者にとって難しかったのではないかと。 「政治・経済」分野については、問題の難易度は適正なものである。応用レベルの問題は3問出題されバランスが良い。
(7) 得点のちらばり	4	適正であった。受験者の学習成果が素直に得点に反映されていたものと思われる。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	「倫理」分野については、高等学校学習指導要領・教科書の内容を基本的にふまえ、工夫された問題であった。また、問題の難易度や平均点は適正だったと評価できるため、昨年度および今年度に引き続き維持されたい。あわせて、受験者の地道な努力が報われるような配慮をお願いしたい。「政治・経済」分野については、問題は基礎的な知識を問うものを中心としながら、思考力や判断力を問う出題もあり工夫がある。引き続き、基礎的な知識を活用して思考する力を問う出題や時事的・社会的な知識から諸問題を考察させる出題の充実を期待する。以上の観点を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であったといえる。

科目名	数学 I
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。
(2) 思考力	4	第3問(2)、第4問(4)等、思考力や応用力を問う問題があり、十分に評価できる。
(3) 出題内容	4	特定の分野や内容に偏ることなく、出題されていた。
(4) 問題構成	3	設問数、配点、設問形式等はおおむね適切である。第4問の分量については改善されたが、やや多い。
(5) 表現・用語	4	問題の文章表現・用語に関して、適切であった。
(6) 難易度	4	学習の達成度を正しく評価できる出題であり、適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める範囲内での出題であった。
(2) 思考力	4	第2問〔2〕(3)、第4問(4)等、思考力や応用力を問う問題があり、十分に評価できる。
(3) 出題内容	2	第5問は第2問〔1〕の範囲の内容と重複するところがあり、「図形と計量」の分野や内容に偏りが見られた。
(4) 問題構成	3	設問数、設問形式は適切である。 教科書における取り扱いの分量を考えると、「二次関数」の配点が10点であり、やや低い。 第2問〔2〕の分量については改善されたが、やや多い。
(5) 表現・用語	4	問題の文章表現・用語に関して、適切であった。 ただし、第4問(4)では、誘導があった方が望ましい。
(6) 難易度	4	学習の達成度を正しく評価できる出題であり、適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	以上の観点を踏まえて、大学入試センター試験の試験問題としておおむね適切であった。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	数学的な思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれていた。特に、三角関数のとりうる最大の整数を求める問題は良問であった。
(3) 出題内容	4	全範囲から適切に出題されていた。
(4) 問題構成	4	試験問題の設問数、配点、設問形式は、適切であった。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。先の解答の見通しが立つような問題文の表現が工夫されていた。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正であった。基本的な問題から発展的な問題までバランスよく出題されていた。計算量も適正であった。学習の達成度を正しく評価できる出題であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、総合的に上記評価値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	数学的な思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれていた。特に、三角関数のとりうる最大の整数を求める問題は良問であった。
(3) 出題内容	4	全範囲から適切に出題されていた。
(4) 問題構成	4	試験問題の設問数、配点、設問形式は、適切であった。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。先の解答の見通しが立つような問題文の表現が工夫されていた。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正であった。基本的な問題から発展的な問題までバランスよく出題されていた。計算量も適正であった。学習の達成度を正しく評価できる出題であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、総合的に上記評定値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	第1問には知識・理解を問う問題を多く配置し、第2問や第3問には思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれており、全体のバランスがとれている。
(3) 出題内容	3	特定の分野・領域や特定の教科書に偏ってはいないが、固定資産に関する出題（第1問B）がやや多かったように思われる。
(4) 問題構成	4	基礎的な内容の出題と応用的内容の出題でバランス良く構成されており、設問数、配点、設問形式等試験問題の構成は適切である。
(5) 表現・用語	3	文章表現・用語は適切であるが、教科書で一般的に使用されている表現と違うところがあったので、可能な限り教科書の表現を使用していただきたい。
(6) 難易度	4	平均点も6割に近く、第1問、第2問、第3問の順に難易度の調整がなされており、適正である。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね正規分布に近い形を示しており、適正である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切である。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	科目特性や科目難易度、試験時間の配分等を踏まえ、知識のみでなく、思考力や応用力等を問う問題がバランス良く配置されている。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書におおむね偏っていない。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成は適切である。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(6) 難易度	3	問題2、3について難易度はやや高い。 選択問題3、4において難易度に差が見られた。差異が生じないよう配慮を望みたい。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえて、総合的に上記評定値で評価すると、大学入試センター試験の試験問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から出題されている。
(2) 思考力	4	科目特性や難易度、試験時間の配分等を踏まえて、思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれている。
(3) 出題内容	4	高等学校学習指導要領に示す範囲で各分野からバランスよく出題され、特定の分野・領域の偏りはない。また、使用教科書による不公平性はない。
(4) 問題構成	4	設問数、配点、設問形式は試験時間や受験者層を踏まえて適切である。組み合わせ問題で部分点を与える配点も適切である。
(5) 表現・用語	3	表現・用語は簡潔でおおむね適切であった。一部、用語の使い方が気になる点が見られた。
(6) 難易度	4	標準的な問題を主として、基礎的、応用的な問題がバランス良く出題されており、適正な難易度である。
(7) 得点のちらばり	4	適正なちらばりである。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	限られた試験時間の中で、学習の達成の程度をみるために適切な題材が工夫して出題されている。全体的にバランスが取れており、適切な問題であった。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	3	高等学校学習指導要領の範囲内からおおむね適切に出題されている。ただし、中学校で学ぶ内容の応用とも解釈できる問題が出題された。
(2) 思考力	4	単に知識だけではなく、思考力や応用力等を問う問題が適切に含まれている。一見、知識の暗記だけで答えを導き出せる問題の中に、思考力や応用力を必要とするものも出題されていた。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である。設問形式は、文字計算の問題と図・グラフを選択または用いる問題がバランスよく出題されている。ただし、数値計算の問題の割合が昨年度に比べて大きく減った。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(6) 難易度	3	問題の難易度はおおむね適正である。標準的な問題を中心に、基本的な問題と応用問題がバランスよく出題されている。一部、他の問題と比べて明らかに難易度が高いと考えられる問題が含まれていた。
(7) 得点のちらばり	3	得点のちらばりはおおむね適切である。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験として適切である。ただし、探究活動をテーマにした問題についてはより一層の充実が求められる。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を素直に問う問題が多く、学習内容の達成度を確認するための適切な問題となっている。
(2) 思考力	4	思考力を問う問題は、解答数16のうち6題出題された。「化学基礎」という科目の性質と限られた解答時間を考慮すると、適切である。
(3) 出題内容	4	化学と人間生活・物質の構成・物質の変化の各分野からバランスよく出題された。思考力を問う良問の作成には困難を伴うことが予想されるが、教科書の記載内容に配慮の上、努力いただきたい。身の回りの物質と化学を結びつける出題は、化学に対する興味・関心を高める上でも重要な意味を持つので、今後も続けていただきたい。ただし、化学と人間生活の分野では、教科書によって取り扱いが異なる場合も多く、出題内容に工夫をお願いしたい。また、化学は「実験・観察」をもとにして成り立つ学問であり、その結果を「図表・グラフ」で表すこともよく行われている。実験の重要性を教育現場で意識させる観点や、その分析を通じて科学的な見方・考え方を養う観点からもとても意義が大きく、引き続き出題を検討してほしい。
(4) 問題構成	4	小問数13、平均選択肢数4.7であった。「複数組合せ問題」が3題出題されたが、関連性のあるものなので特に問題ないと判断する。今後も配慮をお願いしたい。
(5) 表現・用語	4	問題文・条件を簡潔にし、平易な表現となるように工夫されており、作題者の配慮が見られる。教科書によって表現が異なる場合も多く、受験者に分かりやすい表現や用語の使用を引き続きお願いしたい。
(6) 難易度	4	基本的問題が9問、標準的問題が6問、発展的問題が1問出題された。計算問題は数値が工夫されており、引き続き配慮をお願いしたい。今年度も平均正答率が6割程度であり、適切であったと評価できる。来年度も4科目間のバランスのとれた難易度となるようお願いしたい。
(7) 得点のちらばり	4	得点の散らばりは適切なものとなっていた。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や内容は高等学校学習指導要領の範囲内で、「化学基礎」の本質に対してできるだけ純粋な問いかけをしようとしている作題者の出題の意図・狙いは十分に感じることができた。高等学校における「化学基礎」の基礎的な学習の達成度を見るにふさわしい、工夫された出題であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に準拠し、教科書に記載されている内容を問う問題が多く、学習内容の達成度を確保するための適切な問題となっている。
(2) 思考力	4	大問毎にバランスよく出題されており、適切であったと考える。教科書の学習内容をもとに、図表やグラフを用いて解答を導く問題など、思考力を問う内容となるように工夫されていた。
(3) 出題内容	3	例年通り大問6問（必答5、選択1）の構成であり、特定の分野・領域、教科書への偏りはなく、バランスよく出題されていた。図表やグラフを用いて思考力を問う問題が増加したことにより、解答に時間を要する受験者が多くなったと思われるため、解答時間などを考慮して負担が増えすぎないように配慮をお願いしたい。実験・観察に関する問題が昨年同様に少なく、「化学」という科目の特性を考えると、より積極的な出題を希望する。
(4) 問題構成	4	小問数25（必答23、選択2）、解答数29（必答27、選択2）であった。ページ数の増加はあったが、各大問内の小問数等、昨年度同様バランスがとれていた。
(5) 表現・用語	4	大半の問題において、問題文や選択肢の表現については適切な用語や表現が使われていた。
(6) 難易度	3	昨年度までに比べて、複数組合せ問題や計算問題、発展問題が増加したことから、受験者への負担が増加し、平均点の降下につながったと考える。
(7) 得点のちらばり	4	平均点は54.67点（昨年度60.57点）、標準偏差20.81（昨年度21.97）であった。適度に広がりを持っており、受験者の力量にあった、選抜試験に資する適切な分布をしているものとする。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	現行教育課程の高等学校学習指導要領による5回目の試験であった。難易度や問題構成などにおいて、高等学校教育現場の関係者の意見や要望に配慮がなされた出題となった。作題者に敬意を表したい。内容は、上記各項目の内容を総合的に判断して、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験としておおむね適切な試験であるとする。今後も年度間、科目間の差がつかないように良問の出題をお願いしたい。

科目名	生物基礎
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に基づく出題であった。
(2) 思考力	4	知識問題に加え、与えられたグラフや条件から考察する、仮説の検証に必要な実験を考えるなど、思考力や応用力を問う設問が含まれていた。また、発展的な計算問題も含まれていた。
(3) 出題内容	4	教科書に記載されている内容に準じた問題が多く、特定の分野・領域や特定の教科書に偏ってはいなかった。また、教科書の全分野からバランスよく出題されていた。
(4) 問題構成	4	設問数、配点は適切である。設問形式については、昨年度に比べて数値・記号選択、図選択もあり、多様化した。また、資料や問題文と設問が見開きに収められており、解答がしやすかったと思われる。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適正である。
(6) 難易度	3	計算問題や発展的な内容が増加し、昨年度よりもやや難化したが、受験者の実態に合っており、正確な知識や思考力を評価するための試験として、難易度はおおむね適正である。ただし、思考を必要とする問題が多くなると、その分解答時間が長くなり、負担が大きくなる。受験者の大部分が文系であることに配慮して問題作成をお願いしたい。
(7) 得点のちらばり	4	標準偏差から、得点のちらばりは適正であると考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	受験者の実態に合った難易度であり、高等学校学習指導要領に準じた内容からバランスよく出題されていた。思考力や応用力、計算力を問う問題も出題され受験者の学習の到達度を判定する試験としては適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	必答問題5問、選択問題2問ともに、高等学校学習指導要領に基づく出題であった。
(2) 思考力	3	昨年度に比べて思考力・応用力等を問う問題の割合が大きく増加し、現行の教育課程に入って最大であった。
(3) 出題内容	3	出題内容は、おおむね教科書の内容に準じた標準的なもので、ほぼ全ての分野からまんべんなく出題された。ただし、必答問題と選択問題が重複する単元から出題されており、選択問題の存在意義や必要性に疑問が残った。
(4) 問題構成	3	設問の内容に応じた配点はおおむね適切であったが、第5問の解答数が8と多く、他の問題に比べて解答一つひとつの配点が小さくなっている。また、必答問題は全てA・B二部構成であり、A・Bいずれにおいても与えられたデータや実験結果をもとに考察する大問が四つもあり、やや量が多いように思われる。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語については適切であった。昨年度と比べ、問題のページ数及び文章量がやや減少し、図表が大幅に増加したものの、いずれの図表も、実験・調査の方法や結果を効果的に提示するため、あるいは問題文の記述を補完し理解を促すために効果的に使われていた。
(6) 難易度	4	全体として難易度は昨年度並で、適正である。現行高等学校学習指導要領による大学入試センター試験も5回目を迎え、高校教育現場等における思考力・応用力を重視した問題に対する指導の改善、作成者による受験者の学習実態の十分な把握の両面により平均点が上昇したと考えられる。
(7) 得点のちらばり	3	昨年度に比べて標準偏差がやや小さくなったが、得点のちらばりはおおむね適正であった。ただし、思考問題の多さにより受験者が十分に考える時間がなく、解答できる問題と解答できない問題の二極化が進むことでちらばりが小さくなった可能性もある。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	3	全分野から思考力を要求する問題が出題された。大問を個別に見ていくといずれも良問であるが、必答問題5問全てがA・B二部構成となっていること、与えられた情報量が多いこと、選択問題2問に目を通しどちらを解答するか決める必要があることなどを考えると、60分という試験時間で解答するには分量がやや多過ぎる。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に基づく「地学基礎」の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	4	図表や観察・実験を扱う基礎的な知識を基に科学的な思考力応用力等を問う問題が適切に含まれている。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書に偏っていない。各分野からバランスよく出題されているが、「環境・災害」からの出題がなかったため、今後は、分野横断型の設問にするなど1つでも出題していただけることを期待したい。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成は適切である。設問数や選択肢数については、今後も難易度や試験時間等も考慮しつつ、適切な設定を期待したい。設問形式では、図・グラフなどを効果的に用いた設問があり、また、リード文に会話文を用いる工夫も見られた。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(6) 難易度	4	難解な問題はなく、また基礎的な知識問題も減少し、全体としての難易度は適正である。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。出題内容や問題構成などが適切であった成果であると考えられる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。「地学基礎」の学習達成度を測るため、基礎知識・科学的な思考力・判断力・応用力を総合的に問う問題で構成されており大学入試センター試験の問題として適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されている。
(2) 思考力	3	教科書に準ずる基礎的事項の確認や、それを基に科学的思考力を働かせて解答する設問が多かったが、設問文を図式化する設問や図表を活用する設問も見られた。
(3) 出題内容	3	「地学」の各分野からバランスよく出題されていた。分野横断型の設問は少なかったが、理科で必要な観察、実験・実習に関する設問が見られた。教科書により取り扱い方に差のある題材に関する設問が少し見られた。問題の工夫を期待したい。
(4) 問題構成	4	設問数、選択問題の設定、選択肢の数等、適切であった。組合せの設問が多く見られたが、各設問には図表等が随所に用いられており、学習成果を発揮しやすい問題構成であった。
(5) 表現・用語	4	図やグラフも教科書を基にしたもので理解しやすく、文章表現・用語についても素直で紛らわしいものはなく、適切であった。
(6) 難易度	3	基礎的事項を確認する問題が多かったが、様々な形式の出題が見られた。結果的に平均点は昨年度より低かったことから、難易度はやや高めであったと言える。
(7) 得点のちらばり	3	標準偏差から考えると、得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	3	受験者の高等学校段階における自然現象の理解度・学習到達度を判定するための問題として、おおむね適切なものであった。「地学」受験者の現状を考慮した上での出題であると考える。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されていた。
(2) 思考力	4	科目の特性や難易度、解答に要する時間等を踏まえ、思考力や応用力等を問う問題がバランス良く含まれていた。特に、第3問A・B、第5問は、文脈の理解や行間を読むことが求められ、思考力を測るものとして適切であった。
(3) 出題内容	4	特定の分野・領域や特定の教科書に偏らず、幅広い分野から出題されていた。また、背景知識に左右されない公平な出題内容であった。
(4) 問題構成	4	試験問題の構成は、設問数・配点・設問形式全てにおいて適切であった。
(5) 表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(6) 難易度	4	問題の難易度は適正であった。
(7) 得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学入試センター試験が、志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主な目的としていることから判断すると、全体として問題は適切であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	いずれの設問も、高等学校学習指導要領の「外国語」の範囲内での出題であり学習の成果を問うものとして、おおむね適切な出題であった。
(2) 思考力	4	聞き取った複数の情報を、視覚情報と組み合わせて、総合的に勘案し、正答に導くよう工夫されていた。実際のコミュニケーションの場面で必要な、言外に含まれる相手の意図を読み取ったり、示された情報から素早く必要な情報を読み取ったりする力などが問われており、良問だったと言える。
(3) 出題内容	4	内容としては、高等学校学習指導要領にも示された様々な場面で想定される会話や独白で、また、新高等学校学習指導要領に示されている方向性とも整合性のとれた内容だったと言える。但し、実際には、書き言葉でほとんどの内容が構成されたコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰの教科書と、必然的に話し言葉が多くなるリスニングは、そもそも出題内容として検討する視点として無理があるようにも感じる。
(4) 問題構成	4	高等学校段階の学習到達度を測る適切な問題構成であり、設問数、配点、設問形式ともに適切であった。
(5) 表現・用語	3	高い情報処理力が求められた昨年度と比べると、語句や表現での難易度にはあまり差がないが、聞き取りの負荷としては、かなり軽減されている。しかし、上述の(3)で述べた点から、評価するにあたっては、実際の教育現場との間に隔たりがあるように感じる。
(6) 難易度	4	平均点が5割を切った昨年度と比較すると、基礎力から応用力までを問いながらも、大学入試センター試験が目安とする6割に達しており、全体的な難易度としても適切だった。
(7) 得点のちらばり	4	36点前後をピークとして、緩やかな放物線を描いており、平均点の低かった過去2年に比べると、8割以上の上位層が増えていると見られる。高い英語力を持つ者が高得点できる、英語の聴解力を測る問題として適切だったと言える。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	知識・技能・思考力を問うよく練られた良問が多かった。いわゆる“教科書英語”と評される英語表現ではなく、より自然な、実際の会話に出てくるような表現が多用されており、教科書内容を踏まえつつ、authenticな表現を教育現場により取り入れる必要性を強く感じる。

科目名	ドイツ語
-----	------

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	3	準拠すべき基準がないため判断は難しいが、受験者を「高校で3年程度ドイツ語を継続して学んできた」とするならばおおむね適切であると考ええる。
(2) 思考力	3	解答をするまでに複数の要素が関連する出題は昨年度より減少し、素直な出題が多かった。
(3) 出題内容	3	日常に即したテーマが多い。
(4) 問題構成	4	純粋な知識を問う問題は少ない。
(5) 表現・用語	4	表現・用語は適切である。
(6) 難易度	3	学習者にとって難しい単語・表現が出題の核をなすことはなかった。
(7) 得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	細かい指摘はいくつかしたが、英語ではなくドイツ語で入試に挑戦する受験者にとって適切な出題であった。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	4	フランス語学習中級者から上級者の学習範囲を網羅した出題であった。
(2) 思考力	3	「情報」を読み取り、その「情報」を活用して判断するという問題があり語学力だけではなく、思考力も問われる良い出題であった。一部には消去法で答えが導きできてしまうものもあった。
(3) 出題内容	4	特定の分野、領域に偏ることなく、受験者が興味を持つような内容もあり、取り組みやすかった。
(4) 問題構成	4	適正であり、問題量も、見直し時間を含め、これくらいが適当。
(5) 表現・用語	4	全体的には、分かりやすい表現で出題されていた。過去の問題で慣れ、規則性を理解していないと難しい問題もあった。(第3問)使われた単語も基本語内であった。
(6) 難易度	4	特に難解な問題はなかった。受験者の実力を正に判断できる問題であった。
(7) 得点のちらばり	4	適正にちらばっていた。文法事項の問題で(第3問、第4問)どちらの配点が高いべきかは微妙な問題であると感じた。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	4	総じて基本語を逸脱しない問題構成で受験者の実力を適正に測れた試験であったと思う。

1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題範囲	3	高等学校学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に「準じて行うものとする。」とあり、明確な範囲が考えにくいですが、主要辞書の重要語等には配慮があり、おおむね適切な出題であった。
(2) 思考力	3	図を使った文章読解では細部まで読み込ませる設問となっている。会話や文章題の空欄補充等も文法や単語にこだわらず、会話や文の流れをしっかりとらえさせる問題となっていて思考力を問う問題も含まれていておおむね適切である。
(3) 出題内容	4	ピンインで示した会話文を使った問題や日本人学習者が理解するべきピンインの仕組み、発音分野を出題しており評価できる。
(4) 問題構成	4	発音・語句・表現・会話・長文読解の構成で、内容も特定の分野・内容に偏っておらず、適切である。 試験時間と問題数のバランスも適切である。
(5) 表現・用語	3	設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。取り換えやすい日本語の口語表現には注意してほしい。
(6) 難易度	4	高等学校の学習状況や受験者の特性が踏まえられ、ここ数年、問題の難易度は安定してきた。今後も平均点にこだわらず、適正な難易度を求めたい。
(7) 得点のちらばり	4	受験者の構成や科目の特性上、偏りが見られるのはいたしかたない。しかし、適正なちらばりに近づいてきている。

2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	受験者の特性や科目の特性に配慮がなされ、よく工夫しており、おおむね適切な作問がなされている。高等学校の学習状況を考えて基礎的な学習の達成度も測れる問題の出題も考えていただきたい。

1. 項目別評価

項目	評定結果	コメント
(1) 出題範囲	2	多くの学習者が使用している中級レベルのテキストの学習範囲外から出題されているため。
(2) 思考力	2	第1問～第3問には知識のみを問う問題が多いため。
(3) 出題内容	4	
(4) 問題構成	2	前半部分の配点が高く、後半の長文問題の配点が低いため。
(5) 表現・用語	4	
(6) 難易度	2	語彙、表現の難易度が高すぎ、長文の量も多いため。
(7) 得点のちらばり	2	得点分布に3つのピークがあることが不自然である。

2. 総合評価

項目	評定結果	コメント
総合評価	3	難易度が高い。高等学校における中級学習者が受験して6割程度正答できる問題の作成を望む。(CEFR A2～B1 (TOPIK 3～4級程度))